からだとは・病とは(80)　縦に二重に見える　　鈴木斉観（斉観堂鍼灸治療院）

患者の紹介で六十代・四十代（母娘）が来院。母親は五十肩で左上肢の結帯動作（手を背に回して上げる動作）が十分でない。通っている整骨院では「1 年すれば、良くなる」と言われている。娘は腕を動かした時に左上腕が肩に付くところで痛む。どちらも一度で良くなり、驚いていた。母親の五十肩は根が深いものでなかったが、通常ではもう少しかかる。だが、「1 年」というのは放っておいた場合で、何も治療しないに等しい。

すぐに七十代の父親を連れて来た。「眼の調子が良くない」と言う。「片目では問題ないが、両目で見ると、縦に二重に見える（両眼性複視）。カゼを引き、治ったが、フアフアした感じがある。車の運転ができない」と。

診ると、胸が滞り、胸下部に邪熱を感じる。お腹は水気があり、ガスで張っている。上衝している（気が盛んに下から頭に昇り、ノボセている）。後頭部にやや熱感がある。単純に眼の問題ではなく、眼に関わる神経・脳が問題だと思われた。最近よく見る〈こじれたカゼ〉の状態で、カゼが奥に入り残っている。その熱でそうした部分が影響を受けているのだろう。胸の邪熱を主に背部から出し、眼周辺、及び後頭部の熱を処理した。治療後、眼は一時良くなり、フワフア感も改善された。柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）を勧め、患者は飲んだ。

四日後に来院、複視は減ったものの、まだあり、減っていたフアフア感も当日の朝に復活。上衝はあり、脈はやや強い。ノドが擦れ、声が少し変である。再び、柴胡桂枝湯を勧め、患者は飲んだ。

その四日後に来院。「良くなっているが、時に複視がある。病院に行ったところ、血圧が最大値 150 で、降圧剤を貰ったが、飲んでいない」と言う。普段、病院に行かず、血圧も測っていないので、今回特に上がったのかは不明。診ると、胸満（胸が充満した感じ）がある。「無色の痰が出る時がある」と言う。お腹の水毒が胸下部にあった邪熱で痰と化し、胸に痰が溜まっていると観た。上衝はなく、胸下部の邪熱も感じなかったので半夏厚朴湯を勧め、患者は飲んだ。

その三日後、初めて自ら車を運転して来院。「痰がたくさん出た」と言う。半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）が効いている。「首を縦に前後に倒すと見え方が変わり、階段の昇降が不安だ」と言う。バランスを司る内耳に関係すると思われた。内耳のリンパ液が痰（濃い水毒）になっているのだろう。耳の前、頬近くを鍼すると熱が出て来て、同時にお腹が鳴る。無色の痰は通常、熱がないと考えられるが、胸下部に邪熱を感じたので、半夏厚朴湯ではなく、これに小柴胡湯が合方された柴朴湯（さいぼくとう）を勧めて、患者は飲んだ。ちなみに、先に勧めた柴胡桂枝湯は小柴胡湯と桂枝湯の合方に近く、勧めた漢方薬が大きく変わっているわけでない。

その二日後に来院。「首を動かした時の視覚異常はないが、少しフアフア感が残っている。痰がよく出た」と言う。前回同様の治療後、二日後の宴会や四日後のゴルフに行けそうだと患者は喜んでいた。柴朴湯を勧め、患者は飲んだ。

その五日後に来院。宴会は家族に止められたが、ゴルフには行け、問題なかったと喜んでいた。まだ少しフアフア感が残っている。前回同様の治療をし、柴朴湯を勧めた。

その三日後に来院。「よく痰が出た。」「ほとんど大丈夫だ」と言う。胸満は無くなっていた。「柴朴湯を飲み始めるのが遅れ、まだ二日分ある」と言うので、それを飲むことを勧め、治療を終了した。(2016 年 1 月小寒)